



博物館は地域の歴史文化遺産を保存し、その魅力を広く発信する施設です。文化庁が京都へ移転したことを記念して、歴史・文化を生かした文化観光まちづくりを推進するため、無料開放や文化財を活用したイベントを通じて、多くの市民の皆さんに博物館と舞鶴の豊かな歴史・文化に触れていただく、市内博物館4館合同イベントを開催します。

舞鶴ミュージアムマンス

下の無料クーポンを提示された市民を対象に市内4博物館（赤れんが博物館、引揚記念館、郷土資料館、田辺城資料館）の入館料を無料とします。クーポンは切り取らずに受付に提示を（各館一回限り1枚で10人まで無料、同伴の市外の在住者も対象）。スタンプを押印します。

【期間】9月3日(日)まで
【問い合わせ先】観光振興課 (☎66・1024)



記念シンポジウム

博物館と地域の未来

地域博物館の役割とあり方をテーマにした4館合同のシンポジウムを開催。国立科学博物館副館長の栗原祐司さんによる講演や事例発表、パネルディスカッションを実施。

【日時】9月2日(日)13時30分～16時15分
【場所】赤れんが4号棟
【定員】150人（多数の場合抽選）
【申し込み方法】8月31日(木)までに電話かファクス、申し込みフォームで観光振興課 (☎66・1024、FAX 62・9891) へ。右コードからアクセス可。



赤れんが博物館前庭広場スペシャルライブ

舞鶴ゆかりのアーティストによるコンサートと舞鶴をテーマにしたオリジナル曲の贈呈式。宗本康兵、南野陽子、中嶋ユキノ、海上自衛隊舞鶴音楽隊が出演。

【日時】9月2日(日)18時30分から
【場所】赤れんが博物館前庭広場（雨天：総合文化会館）
【定員】先着1,000人
【料金】全席自由◆椅子席…3,500円（小学生以下1,500円）◆立見席…1,500円（小学生以下1,000円）
【チケット購入場所】総合文化会館、まいづる観光ステーションなど。詳しくは市ホームページを確認を。右下コードからアクセス可。
【問い合わせ先】CALARS (☎0773・24・2822)



赤れんが博物館サマーライトアップ

普段とは一味違う特別な夜間ライトアップを実施。映えスポットも設置。
【期間】8月21日(月)～9月3日(日)
【問い合わせ先】文化振興課 (☎66・1019)

◆その他今後のイベント
◆赤れんが博物館30周年企画展…11月3日(祝)～来年2月25日(日)、赤れんが博物館◆赤れんが博物館30周年記念講演会…11月19日(日)、赤れんが2号棟◆赤れんが博物館を拠点としたまちなかなど周遊イベント…11月～来年2月

まいづる元気人

Vol.103

学生のチャレンジをサポート
プログラミングで得た経験を生かして

キーワードは「プログラミング」と「舞鶴高専」。舞鶴高専で学びを深め、いったんは舞鶴を離れるも、再び技術職員として高専に戻ってきた蔭山さん。母校の学生に伝えたい思いは何なのか、プログラミングに携わる人間として、内に秘める思いは何なのか話を伺った。



舞鶴工業高等専門学校 技術職員 蔭山 海一郎 さん



授業の様子（舞鶴高専提供）



マイクラフトの教材を作成

舞鶴高専で培った力

出身は兵庫県。中学生まで西市で過ごしていた。中学生の頃からプログラミングに興味があり、友達と一緒に長い時間を専門知識の勉強に充てられるよう、学生寮のある舞鶴高専への進学を決意。在学時は電気・情報分野を専攻し、部活動ではプログラミングと部活動の両方に所属した。授業と部活動の両方からプログラミングへの学びを深めたという。「部活動では、仲間と一緒に1つの物を作り上げていくのが好きでした」と話す。在学最終年には、英語塾から、幼稚園児たちが楽しく英語を学べる「英会話カルタ」を多くの人に広めたいと依頼され、タブレット端末とスマホで使えるアプリの開発を手掛けた。「汎用性のあるアプリの開発は初めてで、どう

すれば子ども達に楽しんでもらえるか苦労しました。卒業したら舞鶴を離れる予定だったので、それまでに舞鶴に恩返しができるようになったです」と、当時のことを振り返る。

縁があり再び舞鶴へ

高専卒業後は、サービスエンジニアとして市外の機械製品の修理会社に就職した。「現場では、予期せぬトラブルが発生すると、その原因をお客さんに分かりやすく説明することが求められますが、高専で培った観察力や文章作成力などが役に立ちました。非常にやりがいのある仕事で充実した毎日を送っていました。そんな時に学生時代の知人から「舞鶴高専で働かないか」と声をかけてもらいました。迷った末に、縁を大切にしようと思断し、2年前の春に再び母校に戻ってきました。今は、プログラミングや電気回路の実験実習に使用する機器の管理など、授業の支援を担当しています」と高専の技術職員になった経緯を話す。

プログラミングを通して

「幼少期からプログラミングに

関わる機会を増やすことが重要だと思ひ、小・中学生を対象にマイクラフトを使ったプログラミングの出前講座を行っています」と未来を担う子ども達の育成を進めている。「最近では、バーチャルSNS「VR Chat」を使い、世界中の人と交流しています。市内在住の若者がVRを活用し、手話講座のボランティアをしていることを知り、感銘を受けました。私も定期的に参加し、今は手話の勉強もしています」と仮想空間というプログラムを通して得た新しい出会いを語る。「現在の学生は、スマホなどのITツールを駆使し、気になるとだけを調べます。そして将来に直結するスキル・資格ばかりを求めることが多いです。しかし、将来に直結することだけでなく、興味のあるいろんな分野に寄り道することで、意外なつながりが生まれることもあります。学生がさまざまな分野にチャレンジできるよう、プログラミングを通してサポートしたいと思ひます」と語る蔭山さんは、日々、学生を支えていくための新しいプログラムの作成に挑戦している。